

会社名:	有限会社 ホリケン	承認	承認	承認	承認	承認	承認
	第120回 安全衛生協議会						
実施年月日	2022年6月10日 金曜日	議事録作成者		山崎 雄貴			
責任者	堀 峰也	出席者		別紙参照			
<b>《安災システムにて開催致しました》</b>		2	ゼロ災運動	【25分】			
1	全国安全週間			【25分】			
令和4年7月1日(金)～7月7日(木)		理念3原則					
準備期間令和4年6月1日(水)～6月30日(木)		1.ゼロの原則・・・単に死亡災害・休業災害だけがなければよいという考えではなく、職場や作業に		潜むすべての危険を発見・把握・解決し、根底から労働災害をゼロにしてゆこうという考え方。			
令和4年度の「全国安全週間」スローガン：「安全は急がず焦らず怠らず」		2.先取りの原則・・・究極の目標としてのゼロ災害・ゼロ疾病の職場を実現するために、事故・災害		が起こる前に、職場や作業にひそむ危険の芽を摘み取り、安全と健康(労働衛生)を先取りすること。			
		3.参加の原則・・・職場や作業にひそむ危険を発見・把握・解決するために、全員が一致協力してそ		れぞれの立場・持ち場で自主的、自発的にヤル気で問題解決行動を実践することをいいます。			
第95回全国安全週間について		推進3本柱					
今年で95回となる全国安全週間は、労働災害を防止するために、産業界での自主的な活動の推進		1.トップの経営姿勢・・・安全衛生は、まずトップのゼロ災害・ゼロ疾病への厳しい経営姿勢に始まる。		と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目標としています。			
事業場では、労使が協調して労働災害防止対策を展開し、労働災害は長期的に減少してきました。		「働く人一人ひとりが大事だ」、「一人もケガ人は出さない」というトップの人間尊重の決意から		運動は出発します。			
しかし、近年は、就業人口が高齢化し、高年齢労働者の労働災害や、転倒や腰痛などの労働者の		2.ライン化の徹底・・・安全衛生を推進するには、管理監督者(ライン)が作業の中に安全衛生を一体		に組み込んで率先垂範して実践することが不可欠です。ラインによる安全衛生管理の徹底が第二の柱。			
作業行動に起因する労働災害が顕著に増加しています。これらの災害は、事業者が行う対策だけで		3.職場自主活動の活発化・・・一人ひとりが危ないことを危ないと気付き、自主的、自発的にヤル気で		安全な行動をするような実践活動がなければ、職場の日々の安全を確保することはできません。			
防ぐことが困難な場合もあるため、災害防止に向け労使一丸となった取組が求められています。							
このような状況下で労働災害を減少させるには、事業者・労働者双方が労働災害防止のための基本		3		必須動画		【5分】	
ルールを徹底し、それらを遵守・実行するための時間的・人力的余裕のある業務体制を構築することが		・防ごう熱中症！					
重要です。そのため、今年度は、「安全は急がず焦らず怠らず」のスローガンの下、全国安全週間を		・災害事例					
実施します。							
厚生労働省では、全国安全週間と合わせて、6月1日(水)から30日(木)までを準備期間として、安全							
広報資料等の作成・配布、安全パトロールの実施、労働安全に関する講習会の開催など、さまざまな							
取組を実施します。							

